

教案 日本語力だけで決めない！日本語＋αで「もっと知りたい」を揺さぶる

目次

対象となる子ども.....	1
目標.....	1
活動実施上の基本方針.....	2
活動の構造.....	3
全体の概要（大まかな流れ）.....	4
応用例.....	12

■ 対象となる子ども

年齢	小学校高学年以上
人数	13人(何人でも)
経験・知識	平日に通う現地校やインターナショナルスクールで、日本語以外の学習言語で様々なトピックについて学んでいる
日本語力の目安	様々な支援(得意な言語の使用、ペアやグループでの協働など)があれば、 小学5年生の国語教科書の内容がだいたい理解できるレベル ※ リライトによって、読解教材の語彙や難易度を変えることで、もう少し下の学年から も使えるようにアレンジできます

■ 目標

目的	知的好奇心を刺激するテーマでの学習活動を通して、多角的視野を育てる
目標	世界のマッシュアルーツを比較しながら、類似点や相違点を整理する また、その過程を通して、それぞれの文化的背景や特徴を理解し、考察する
言語面の目標	- 日本語以外の得意な言語(英語、中国語など)で調べたり考えたりしたことを、日本語で発表する - 読解活動を通して、文脈の中で語句の意味や使い方を理解する。 - パラグラフの構成を意識してアイデアをまとめ、読み手にわかりやすい短い文章を日本語で書く

■ 活動実施上の基本方針

(1) 子どもたち自身がもつ言語・知識・経験のすべてが豊かな資源であることに気づかせる

子どもたちが持つ資源は、学びの大切な土台です。得意な言語の知識、平日の学校で学んだ知識、生活の中での経験や文化的な背景など、もともと子どもたちの持っている資源を活かすことは、自身の思考を深め、目標言語である「日本語」で言語化する手助けになります。授業では、話し合いや調べ学習の中で、これまでの経験や他言語での学びを共有する機会を多く設けています。

(2) 子どもたちの「できること」に光をあてる

上記(1)とも関連しますが、授業では、**子どもたちが得意な言語を使って日本語オンリーではできないことにも前向きに挑戦できるような環境づくり**をします。

子どもたちが「できないこと」に注目してしまうと、自信を失い、学習意欲が低下する可能性があります。そのため、授業では「できない」部分を指摘するのではなく、「できること」を見つけ、それを足掛かりに学習を進めていくことを重視しています。

(3) 安心して日本語で情報発信できるように段階的なアプローチをする

発表などの前には、しっかりと準備をする時間を十分に確保し、ステップ・バイ・ステップの活動を通じて子どもたちが安心して自信を持ってアウトプットできるように配慮しています。子どもたちが安心して意見を共有できる環境を整えます。

(4) 協働学習で多様な日本語力の子どもたちがそれぞれ日本語力を伸ばせる環境を創る

子どもたちの日本語力に差がある場合も、ペアやグループ活動を通して互いの強みを活かし合い、全員が主体的に関わることができ、すべての参加者に学びがあるように留意します。

日本語が苦手な子どもたちが読みでわからないところを質問したり、自分の言いたいことをクラスメイトの助けを得て言語化したりするプロセスは、日本語力の伸長につながります。また、日本語力が得意な子どもにとっても、クラスメイトの求めに応じて他言語で説明したり、日本語で言い換えたりして改めて言語化することは、よい学習になります。これにより、様々な日本語力の学習者が混在する学びの場でもすべての子どもたちが日本語力を伸ばすことができるような環境を整えます。

(5) オープンエンドな対話を引き出す

オープンエンドな対話とは、特定の正解を求めるのではなく、自由なやり取りを通じて子どもたちの考えや感情を引き出すことを目的とした対話を指します。ペアやグループでの協働学習を行い、自分の思考を言語化し伝える、一つの事象についても様々な考え方やとらえ方があるという多角的な視点を学ぶ機会とします。

■ 活動の構造 60分×8回 *新しいテーマで教材を作りたい方は、[こちら\(p.12\)](#)もご覧ください。

【1回目】

※ページ数は教材(PDF)と対応

活動内容

テーマの導入

- ・マーシャルアーツに関する既有知識や経験の共有(pp.1-2)
- ・「読みもの(世界のマーシャルアーツ)」導入(pp.3-4、または pp.9-10)

宿題

「読みもの(世界のマーシャルアーツ)」音読(pp.3-4)

【2回目】

活動内容

「読みもの(世界のマーシャルアーツ)」内容理解、語彙学習(pp.3-8)

宿題

「読みもの(世界のマーシャルアーツ)」音読(できればふりがななしで)

【3回目】

活動内容

「様々なマーシャルアーツの共通点」パラグラフライティング(p.12)

宿題

「なぎなたの紹介」(スピーチのモデル文)の音読(p.13)

【4回目】

活動内容

「マーシャルアーツを紹介しよう」

- ・紹介したいマーシャルアーツについてのスピーチ準備(pp.14-15)

宿題

スピーチのモデル文の音読、自分のスピーチ原稿の完成(pp.14-15)

【5回目】

活動内容

「マーシャルアーツを紹介しよう」

- ・スピーチ発表とその振り返り(p.15)
- ・自分の選んだマーシャルアーツとなぎなたを比較してまとめる(p.16)

【6回目】

活動内容

「マーシャルアーツの達人にインタビュー」

- ・地域のマーシャルアーツ指導者へのインタビュー準備(p.17)

【7回目】

活動内容

「マーシャルアーツの達人にインタビュー」

- ・地域のマーシャルアーツ指導者へのインタビュー(p.17)

宿題

インタビューのメモを整理し、印象に残った内容を箇条書きで書く

【8回目】

活動内容

「マーシャルアーツの達人にインタビュー」
・インタビューで学んだことをまとめる(pp.18-19)
「テーマのまとめ・ふりかえり」(p.20)

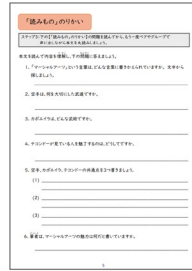
■ 全体の概要(大まかな流れ)

1回目

時間	活動内容	留意点
10分	【探求を深めるための問いかけとめあての確認】 1. p.1の「考えてみよう」に書かれてある質問についての答えをみんなで発表し合う。 2. めあてを読み、今回のテーマ「マーシャルアーツ」における文化的・言語的目標を確認する。	・マーシャルアーツについて、「見たことがある?」「やったことがある?」などの簡単な質問をしたり、体験談をみんなで話したりして、テーマに興味を持たせる。 ・テーマに関連した「どうしてだろう?」「何が大切なんだろう?」などの問いを考えさせ、課題を意識して学べるようにする。
30分	【学びを深めるための情報整理と知識の活用】 1. マーシャルアーツについて知っていることや、もっと知りたいことをp.2の『K (What I know: 知っていること)』と『W (What I want to know: 知りたいこと)』の欄に書いてみる。 2. 動画を見て、思い出したことやもっと知りたくなったことがあればp.2の『K (What I know: 知っていること)』と『W (What I want to know: 知りたいこと)』の欄に書く。 3. ペアやグループで、書いた内容を共有し合う。 4. クラス全体で、日本語で発表する。 <u>教師からの声かけ(子どもたちとのやりとり)の例:</u> T: 身近なマーシャルアーツについて知っていることを書いてみましょう。 T: どんな技がありますか。どんな服装でしますか。	動画 Martial Arts Around the World ・得意な言語を活用してメモをとったり、アイデアを共有してもよいが、全体の発表のときは、日本語で言えるように、グループで協力して準備させる。 ・動画はメモをとりながら見るよう指示する。 ・文で書く必要はなく、単語やフレーズでよい。

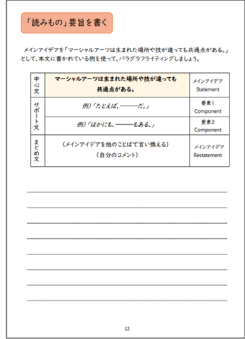
20 分	【読む活動：世界のマッシュアルーツについて理解を広げる】 ▼1回目の読み：教師による範読 「読みもの（世界のマッシュアルーツ）」の教師による範読を聞きながら、大まかな内容を把握したり、読めない漢字や意味のわからない語句を確認したりする。 ▼2回目の読み リーディングポイント(p.4)を読み、各自で日本語の文章を音読し、内容をどれくらい理解できるか確認してみる。ペアやグループで理解を確認する。必要であれば英訳を参照し、理解を深める。	・最初に、p.21の読み方のコツを子どもたちと確認してもよい。 ・範読の際は、ゆっくりと読む。  ・子どもたちの日本語力に合わせて、<ふりがなあり><ふりがなし>を自分で選ばせる。 ・読めない漢字や意味のわからない語句に線を引く。
宿題	【宿題】 「読みもの（世界のマッシュアルーツ）」の音読	・日本語のテキストだけで内容を理解できない場合、英訳(p.11)も読む。

2回目

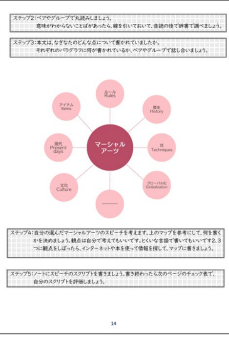
時間	活動内容	留意点
10 分	【前時の復習】 p.3-4<ふりがななし>かp.9-10<ふりがなあり>のどちらかを選び、「読みもの」をペアで<u>丸読み</u>*する。 ※「丸読み」とは、句点「。」が来たら読み手を交代する、つまり一文ずつ順番に読む音読方法	・<ふりがななし>のテキストで読めるように励ます。
25 分	【読む活動：世界のマッシュアルーツについて理解を広げる(続き)】 ▼3回目の読み：「読みもの」の内容理解 - p.5の問に目を通す。 - 問の答えを探しながら、「読みもの」を読む(3回目の読み) - クラスで答えを確認する。	

©The Japan Foundation

3回目

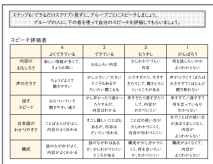
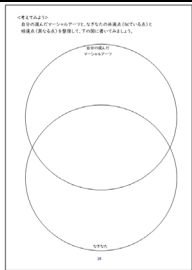
時間	活動内容	留意点
10分	【前時の復習】 p.3-4〈ふりがななし〉かp.9-10〈ふりがなあり〉のどちらかを選び、「読みもの」をペアで丸読みする。	・音読を通して、「読みもの」の内容を思い出させる。
30分	【書く活動：読んで理解したことを整理して書く(パラグラフライティング)】 1. 文章の構造を意識しながら「読みもの」を読む。 (5回目の読み) 2. パラグラフが、①中心文 ②サポート文 ③まとめ文から成ることを確認する。 3. 与えられた文の型を使って、パラグラフライティングをする。 <u>教師からの声かけ(子どもたちとのやりとり)の例:</u> T:「マーシャルアーツは生まれた場所や技がちがっても共通点がある」という考えをいちばん強く支えている部分を、文章の中から見つけましょう。そして、その内容を自分のことばで簡単にまとめて、サポート文として書いてみましょう。 T:まとめ文は、中心文の言い換えです。同じ意味を表す他のことばを使ったり工夫して文を考えましょう。 T:まとめ文の次の「自分のコメント」には、テキストのことばを借りながら、読んで考えたことを書いてみましょう。	 ・まとめ文が書けてさえいれば、最後のコメントはなくてもよい。
10分	【パラグラフライティングの発表】 1. ペアやグループで完成したパラグラフを読み合う。 2. クラスでライティング例を確認する。	
10分	【スピーチの準備:マーシャルアーツの紹介スピーチの原稿にふれる】 〈ステップ1〉 「なぎなた」を紹介するスピーチ(p.13)の教師による範読を聞きながら、大まかな内容をとらえる。	 ・意味のわからない語句があれば、辞書を使って調べさせる。
	【宿題】 p.13 スピーチスクリプトの音読	

4回目

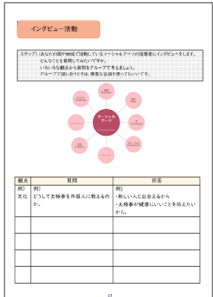
時間	活動内容	留意点
10分	【スピーチの準備:マーシャルアーツの紹介スピーチの原稿にふれる(音読)】 〈ステップ2〉 p.13のスピーチスクリプトをペアで丸読みする。意味がわからないことがあったら、線を引いておいて、音読の後で辞書で調べる。	・音読を通して、スピーチスクリプトの内容を思い出させる。 
30分	【スピーチの準備:紹介したいマーシャルアーツについて調べる】 〈ステップ3〉 スピーチスクリプトにおいてパラグラフごとにどのような観点で書かれていたか、観点マップ(p.14)を使って、ペアやグループで確認する。 〈ステップ4〉 1. 観点マップ(p.14)を活用し、自分の紹介したいマーシャルアーツについて、どの観点でスピーチをするかを考える。 教師からの声かけ(子どもたちとのやりとり)の例: T:自分が選んだマーシャルアーツの、どんなことを伝えたいですか。14ページの観点から選ぶか、自分の考えた観点を空いている円に書き込んでみましょう。観点は2つか3つ選びましょう。 2. 選んだ観点で、インターネットや本を使って調べ学習をする。 教師からの声かけ(子どもたちとのやりとり)の例: T:選んだ観点について、得意な言語で調べてみましょう。 例えば、「アイテム」を選んだ人は、インターネットや本を使って、「どんな道具を使うか」「その道具は何でできているか」など調べてみましょう。	 ・話し合いは、得意な言語を使ってよいということを周知する。 ・観点マップに線を追加し、アイデアを得意な言語でメモをさせる。 ・子どもが多角的な視点で質問できるように、教員が一定の観点や視点を示す。 ・得意な言語のサイトを活用したり、翻訳ツールを使って日本語のサイトで調べてもかまわない。ただし、日本語のサイトは表現の学習にも役立つことを伝えておく。
20分	【スピーチの準備:スクリプトを作成】 〈ステップ5〉 1. モデル文を例に自分の選んだマーシャルアーツを紹介するスピーチを書く。	・辞書を使って語彙やフレーズを調べるのはいいが、自分で考える力を養うために、翻訳ツールや生成AIで文章を作成しないように指示を出す。

	2. スピーチが完成したら、p.15上のチェック表で自分のスクリプトを評価し、修正する。	スクリプトチェック表 <table><tr><td>1 文章の構成</td><td>○△</td></tr><tr><td>(1) メインアイデアが最初のラフドラフトに書かれているか。</td><td></td></tr><tr><td>(2) メインアイデアについて十分な説明に十分な情報を提供しているか。</td><td></td></tr><tr><td>(3) メインアイデアが最後のラフドラフトで書き込まれているか。</td><td></td></tr><tr><td>(4) それぞれのラフドラフトに、アイデア（ポイント）が1つだけ記されているか。</td><td></td></tr><tr><td>2 文法について</td><td>○△</td></tr><tr><td>(1) 読んでいる人を書き出した文法になっているか。</td><td></td></tr><tr><td>(2) 句読点（、）が正しく使われているか。</td><td></td></tr><tr><td>3 動詞について</td><td>○△</td></tr><tr><td>(1) 動詞が正しく使われているか。</td><td></td></tr><tr><td>(2) つなぎ言葉が正しく使われているか。</td><td></td></tr><tr><td>(3) 副詞が正しく使われているか。</td><td></td></tr></table>	1 文章の構成	○△	(1) メインアイデアが最初のラフドラフトに書かれているか。		(2) メインアイデアについて十分な説明に十分な情報を提供しているか。		(3) メインアイデアが最後のラフドラフトで書き込まれているか。		(4) それぞれのラフドラフトに、アイデア（ポイント）が1つだけ記されているか。		2 文法について	○△	(1) 読んでいる人を書き出した文法になっているか。		(2) 句読点（、）が正しく使われているか。		3 動詞について	○△	(1) 動詞が正しく使われているか。		(2) つなぎ言葉が正しく使われているか。		(3) 副詞が正しく使われているか。	
1 文章の構成	○△																									
(1) メインアイデアが最初のラフドラフトに書かれているか。																										
(2) メインアイデアについて十分な説明に十分な情報を提供しているか。																										
(3) メインアイデアが最後のラフドラフトで書き込まれているか。																										
(4) それぞれのラフドラフトに、アイデア（ポイント）が1つだけ記されているか。																										
2 文法について	○△																									
(1) 読んでいる人を書き出した文法になっているか。																										
(2) 句読点（、）が正しく使われているか。																										
3 動詞について	○△																									
(1) 動詞が正しく使われているか。																										
(2) つなぎ言葉が正しく使われているか。																										
(3) 副詞が正しく使われているか。																										
宿題	【宿題】 p.13のスピーチスクリプトの音読、自分のスピーチの完成																									

5回目

時間	活動内容	留意点
25分	【スピーチ発表と相互評価】 〈ステップ6〉 1. 自分の選んだマーシャルアーツを紹介するスピーチをグループ内で行う。 2. p.15の下のループリック（評価基準表）を使って、グループの友人のスピーチの評価をする。	・声の大きさ、話すスピード、アイコンタクトに気をつけてスピーチさせる。 
25分	〈考えてみよう〉 スピーチ活動のまとめとして、自分の選んだマーシャルアーツとなぎなたの相違点と共通点を p.16 のベン図にまとめる。 ベン図を見せながら、ペアやグループで考えを共有しあう。	 ・ベン図を使って視覚化することで、理解を深めさせる。 ・必要であれば日本語以外の得意な言語でまとめてもよいと伝え、思考のまとめを重視する。
宿題	なし ※教師は第7回の外部講師のミニ講演に向けて外部講師と打ち合わせをしておく。	・外部講師に教材を共有し、現在子どもたちが学んでいる内容を簡単に説明し、学習のねらいについて共通理解を図る。 ・講師の経歴を踏まえ、特に話を膨らませてほしいテーマやポイントについて事前をお願いしておく。 ・子どもたちの大まかな日本語力についても説明し、講義の中でシンプルな表現を使い、ゆっくり話していただけるように、また写真などのビジュアルも最大限活用していただけるように依頼しておくとい。

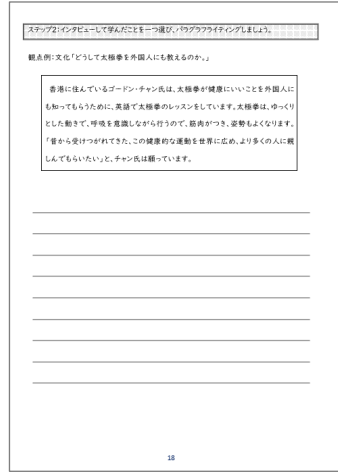
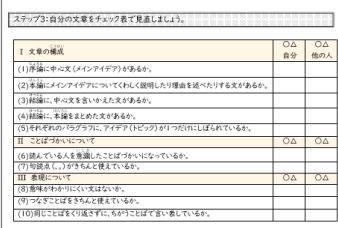
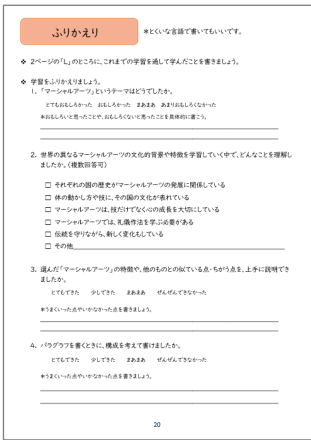
6回目

時間	活動内容	留意点
60分	【インタビュー活動の準備】 〈ステップ1〉 1. 次時に来校する外部講師について、教師から簡単な説明をうける。 2. 外部講師の方にインタビューするために、p.17の観点マップを活用しながら質問を考える。 <u>教師からの声かけ(子どもたちとのやりとり)の例:</u> T:様々な観点から質問したいことを考えてみましょう。 3. 考えた質問をp.17下の表に書く。 4. 考えた質問をグループで共有し、その中から特によい質問を1~2つ選ぶ。	 ・概念マップに線を追加し、アイデアを得意な言語でメモをさせる。 ・初めて会う人と話すときの丁寧な言葉遣いについて確認しておく。
宿題	【宿題】 特になし	・教師が出てきた質問をまとめ、事前に外部講師と共有しておくことインタビューがスムーズに進みやすい。

7回目

時間	活動内容	留意点
60分	【外部講師による講演および講師へのインタビュー】 1. 外部講師の方のお話を、メモをとりながら聞く。 2. 質疑応答の時間に、準備していた質問をする。	・外部講師の話の内容と重複する質問はしないように促す。
宿題	【宿題】 外部講師の方の話のメモをまとめながら、印象に残った内容を箇条書きでいくつか書く。	

8 回目

時間	活動内容	留意点
40 分	【インタビュー活動のまとめ：得たこと・学んだことを整理】 〈ステップ2〉 インタビューの内容を整理して書く（パラグラフライティング）。 1. p.18の見本を読み、パラグラフの構成を理解する。 教師からの声かけ（子どもたちとのやりとり）の例： T:この見本はどんな観点で書かれていますか。 2. 自分の選んだ観点から、外部講師の方の話やインタビュー内容をまとめる。 〈ステップ3〉 自分の文章を p.19 のチェック表で見直す。	 ・同じ観点での情報だけを選んで、一貫性のある文章が書けるように支援する。 ・宿題の「印象に残ったこと」を参考にして観点選びをすると書かせやすい。
10 分	〈ステップ4〉パラグラフライティングの発表 ペアやグループで完成したパラグラフを読み合う。 ・p.19のチェック表を使ってお互いに評価する。 ・よかったところについてもお互いに一言コメントする。	
10 分	【テーマのふりかえり】 1. p.2の「L (What I learned: 学んだこと)」のところに、これまでの学習を通して学んだことを書く。 2. ペアやグループで、書いた内容を共有し合う。 3. ふりかえりの問い(p.20)を使って、テーマを振り返る。	 ・「ふりかえり」を回収して、学びの様子を教員が確認するとよい。

■ 応用例

自分の教室の子どもたちの興味のあるテーマで同様の教材を作ってみたい場合

今回共有した教材「マッシュアルーツ(武道):地域から世界への広がり」は、私たちが支援する子どもたちの興味関心をもとに作成しました。世界各地のそれぞれの教室で子どもたちの興味や関心は様々だと思います。目の前の子どもたちの興味関心に合わせた教材にアレンジしてみたいはいかがでしょうか。

私たちが教材を作るときには、以下を意識しています。

▼ トピック選択のコツ

「食べ物」「服装」「生活様式」などの目に見える表層的な文化の側面を糸口にしながらも、「価値観」「考え方」「ことばの意味」「行動の意味」「アイデンティティ」のような見えない部分(背景となる要素)についても子どもたちが思考したり表現したりするきっかけとなるような教材や授業を創ることを意識しています。

そのアプローチが10代の子どもたちの発達段階を踏まえた、子どもたちの知識欲を満たすテーマになると考えます。

▼ 学習活動のデザインのコツ

学習活動のデザインの際には、下に挙げた5点を意識しています。

(1) 「トランス・ランゲージング」を教授法として活用する

私たちが支援する「日本につながる子どもたち」(継承日本語学習者)の多くは多言語話者であり、日常生活の中で自発的に自分たちの持つ多様な言語資源をフル活用してコミュニケーションをしています。これを「トランス・ランゲージング」と呼びます。私たちの活動ではこの力は子どもたちのアドバンテージととらえ、得意な言語で考えたり話し合ったりしながら、最終的に日本語で表現するという段階的なアプローチを採用しています。

(2) 協働学習を取り入れる

個人の日本語レベルに差がある場合は、ペアやグループ活動を通して互いに学び合える環境を作ります。例えば文章の読解では、ペアやグループで得意な言語で、読解教材のどこに答えとなる根拠が書いてあるかなど話し合いながら質問に答えることで、内容理解が進むことがあります。ディスカッションでは多言語使用を認めつつ、答えは日本語で書くという柔軟な指導を行うことで、得意な言語から日本語への段階的な移行を支援します。

(3) 多様な日本語レベルに対応する

継承日本語教育の現場では、1つのクラスに多様な日本語力を持つ学習者が混在していることが多く見られます。そのため、読解教材には〈ふりがなあり〉と〈ふりがななし〉の2種類を用意し、学習者が自分の日本語力に応じて選べるようにしています。また、読解の補助として英語訳を活用し、理解を支援します。さらに、学習者の日本語力に応じて教材をリライトすることで、より多くの学習者が無理なく読解に取り組めるよう支援します。「できないこと」よりも「できること」に焦点を当て、多言語話者としての豊かな言語能力に気づかせることで、前向きな学習姿勢を育てます。

(4) 書く力を伸ばすために段階を追った指導を行う

私たちが支援する「日本につながる子どもたち」(継承日本語学習者)からは、家庭やコミュニティでのやり取りを通して「聞くこと」「話すこと」には比較的自信があっても、家庭やコミュニティでは「読むこと」「書くこと」の学習が十分にできず、苦手意識を持っているという声がよく聞かれます。このような学習ニーズに応えるため、教材では「聞く」「話す」「読む」の活動もバランスよく取り入れつつ、特に「書くこと」に重点を置いています。具体的には、パラグラフライティングの基礎を学べるように設計しています。

書く内容については、内容と書き方を同時に考えるのは難しいため、まず読解の活動で行う Q&A を使って、書く前に内容をしっかり理解しておきます。そして、書く活動ではパラグラフの構成に集中できるようにします。段階的なサポート(スキファールディング)を通して、最終的には自分の力で書けるように導きます。また、自分で書く内容を決めて調べる活動を取り入れることで、学習者がより主体的に取り組めるようにします。こうした活動では、「ジャンル教授法(※)」の考え方を活用し、モデル文の分析から実際の作文までを段階的に行い、書く力を育てます。

- ・ **ジャンル教授法とは？**

ジャンル教授法は、作文を「感覚的に書く」から「目的に応じて構造的に書く」へと導く指導法です。ジャンル教授法では、「文章の型(ジャンル)」に注目して指導します。従来の作文指導が「自由に書いてみよう」というスタイルに偏りがちだったのに対し、ジャンル教授法では、文章の目的や構造を明確に示しながら学習者に書き方を身につけさせます。

▼ジャンル教授法の基本的な考え方として以下3点があげられます。

- (1) ジャンル=社会的に機能を持つ文章の型 例: 説明文、意見文、物語、報告文など。
- (2) 文章は「誰に」「何のために」書くかによって構造が異なる。
- (3) 学習者はジャンルごとの「型」を理解し、目的に応じた文章を組み立てる力を養う。

▼ジャンル教授法では、次のような4つの段階を踏んで指導します。

STEP1: モデル提示 代表的なジャンルの文章を読み、構造や特徴を確認する。

(例: 意見文なら「主張 → 理由 → 結論」という流れ)

STEP2: 分析と理解 モデル文を分解し、段落の役割や言語表現を学ぶ。

STEP3: 共同構成 教師と学習者が一緒に文章を組み立てる練習をする。

STEP4: 個別構成 学習者が自分で文章を書き、ジャンルの型を活用する。

(5) 地域資源を活用して、実社会に根ざしたコミュニケーションの場を創る

テーマに関連する分野で活躍する外部講師(地域の武道家、カンフーの指導者など)を招き、インタビュー活動を行うことで、学習者にとって実践的な日本語使用の機会を提供します。これは同時に、地域やコミュニティの人に目を向ける機会にもなります。

- ▼ **地域にインタビューに答えてくれる日本人がいない場合**

今回共有した例では、地域の日本人の方に日本語でインタビューを行いました。香港に住む日本語話者以外の専門家(カンフーやテコンドーなど)に、学習者の得意な英語、広東語、中国語(普通語)などでインタビューを行い、それを日本語でまとめて書く活動をして有意義な学びになると思います。お住いの地域に日本語でインタビューできる人材がいない場合にも、子どもたちの得意な言語を使ってインプット(情報収集)を行い、それを日本語でアウトプットするというアレンジも検討してみてもいいのではないでしょうか。